

日時

3月18日(水) 16:00-18:30

定員

先着500名(事前申込み制)

会場

オンライン配信

オンライン会議アプリ『Zoom』を使用

事前に申し込みフォームへアクセスし、参加登録をお願いします。
ご登録後、ウェビナー参加に関する確認メールが届きます。

登録締め切り

3月17日(火)まで
(申し込みフォームはこちらから)参加費
無料

申し込みフォーム

プログラム

総合司会 [東北大学東北メディカル・メガバンク機構]
教授 長神 風二

16:00～はじめに

[CIBER]
代表理事 池田 純子

講演

16:10～日本の公的バイオバンクプロジェクトの概況

[国立精神・神経医療研究センター/AMEDプログラムスーパーバイザー]
理事長特任補佐 後藤 雄一

16:30～たまたま世界とバイオバンク

[青山学院大学 理工学部/元AMEDプログラムオフィサー]
客員教授 増井 徹

16:50～ゲノム医療における診療施設併設型バイオバンクの

果たすべき役割について
[クリニックバイオバンク学会代表理事/慶應義塾大学医学部]
教授・がんゲノム医療センター長 西原 広史

17:05～製薬業界の国内バイオバンクとのこれまでの取組みと今後

[日本製薬工業協会研究開発委員会]
専門副委員長 安達 秀樹

17:20～バイオバンクを活用したCOVID-19宿主感受性遺伝子研究

[慶應義塾大学医学部感染症学教室]
教授 南宮 湖

17:35～最新の科学技術動向を踏まえた、

わが国のバイオバンクで重要と思われること
[国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター(CRDS)]
フェロー 辻 真博

17:50～患者・市民の視点からのバイオバンク未来像

[患医ねっと]
代表 鈴木 信行

18:05～国際的な潮流から見たバイオバンクの価値と

持続可能な成果への展望
[東北大学東北メディカル・メガバンク機構]
教授 萩島 創一

18:15～総合討論・まとめと閉会

第10回
バイオバンク オープンフォーラムバイオバンクと
成果

医学研究の世界でバイオバンクがある程度の認知度を得るようになって、すでに幾年かが経過しました。日本のバイオバンクの草分けともいえるバイオバンク・ジャパンの設立からは20年余りが立ち、東北メディカル・メガバンク計画のバイオバンクや、ナショナルセンター・バイオバンクネットワークの設立からも10年余りが経過しています。

大型のバイオバンクは、公的な支援を受けていることもあり、それに見合った成果が求められます。また、各地で診療機関に併設されているバイオバンクにおいても、施設内で「どのような成果が出ているのか」と問われる機会が多いと言われます。

そもそもバイオバンクの成果とは何でしょうか。どのような成果創出を想定して設立されたのでしょうか。そして、これまでに生み出されてきた成果とは、実際にどのようなものだったのでしょうか。バイオバンクに協力する患者さんや一般住民の参加者の方々は、どのような成果を期待しているのでしょうか。客観的に見たとき、数値化できる成果は何であり、それは何を測っているものなのでしょうか。

成果を根本から問い合わせることは、バイオバンクの価値を改めて問うことにつながります。バイオバンクがどのようにして社会に必要とされ、どのようにその役割を果たし、その価値を示していくのか。開かれた場で検討する機会とします。

